社外秘

2022 年 6 月改訂

挙式の手引き

ジェルモ株式会社

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-15
名鉄不動産竹橋ビル3階

TEL：03-6379-8703
FAX：03-6379-8704

MAIL：info@germo.co.jp

営業時間： 平日11時～16時（火・水定休日）
土日11時～18時

1.注意事項

- 会場入りの際また帰る際は、会場スタッフへの挨拶を忘れずにお願いします。
- リハーサルはポイントを抑え、長くならないように短くまとめてください。
- リハーサル時、新郎新婦への言葉遣いは失礼のないよう十分気をつけて下さい。
- 携帯電話、スマートフォンは緊急時に連絡ができるようマナーモードにして
  会場に持ち込み、挙式中は電源を切って下さい。
- 会場によっては挙式前からビデオ撮影が入りますので、私語は慎んで下さい。
- 会場では毎回式次第を確認し、流れや讃美歌の歌詞を確認してください。
- 屋外の会場では指輪が風に飛ばされないよう注意してください。
  司式台にしまうか、ピローに結ぶ、手元に置いておく等工夫をお願いします。
- 挙式前に会場担当者と挙式について最終の打合せをしてください。
  特に退場時のフラワーシャワーの有無や
  お子様お手伝いの有無等漏らさないように気をつけましょう。
- 司式者は新郎新婦と名前の確認・指輪の確認を必ず行って下さい。
- 結婚証明書の司式者部分のサインは挙式前に書いておきましょう。
- 挙式の途中で順序を間違えてしまっても焦らず臨機応変に対応してください。
- 新婦のドレスの裾を踏まないように注意してください。
- お仕事中は常に笑みを絶やさず、お二人を祝う気持ちを忘れずに動いて下さい。
- 挙式後の証明書やピローの扱いは会場マニュアルを確認してください。

2.基本の式次第・編成

※順序・編成の違う会場もありますので会場マニュアルを必ず確認してください。

【迎賓】	オルガン（+楽器）（2～3 曲）
新郎入場	オルガン（+楽器）
新婦入場	オルガン+聖歌隊（+楽器）
讃美歌 312 番	オルガン+聖歌隊（+楽器）
聖書朗読（コリント前書 13 章）	オルガン BGM
誓約	音楽なし
ベールアップ&ウエディングキス	オルガン+聖歌隊（+楽器）
指輪の交換	
結婚証明書署名	
祈祷	音楽なし（祈祷後ブーケ・手袋返却時は オルガン BGM）
結婚宣言	音楽なし
讃美歌 430 番	オルガン+聖歌隊（+楽器）
祝祷	音楽なし（祝祷後アーメン三唱 /オルガン+聖歌隊（+楽器））
新郎新婦退場	オルガン（+楽器）
【送賓】	オルガン（+楽器）

※ベールダウン・ユニティキャンドル・リングガールボーイ等のセレモニーが入る場合は
別途楽曲を用意していただきますので、オルガン奏者の方は多めに楽譜を持参して下さい

挙式では聖歌隊 2 名が迎賓時にゲストの方のご案内を行います。

手で方向を指し示しながら、「こちらは新郎様側、こちらは新婦様側です。」
とご案内して下さい。
祭壇に向かって右が新郎側、左が新婦側です。
人前式では、右が新婦側、左が新郎側になります。

3.リハーサル

リハーサルの時間になりましたら入場口のあたりで聖歌隊は待機、

牧師は司式台の位置で待機をします。

新郎新婦がお見えになりましたら聖歌隊より丁寧にご挨拶をしてください。

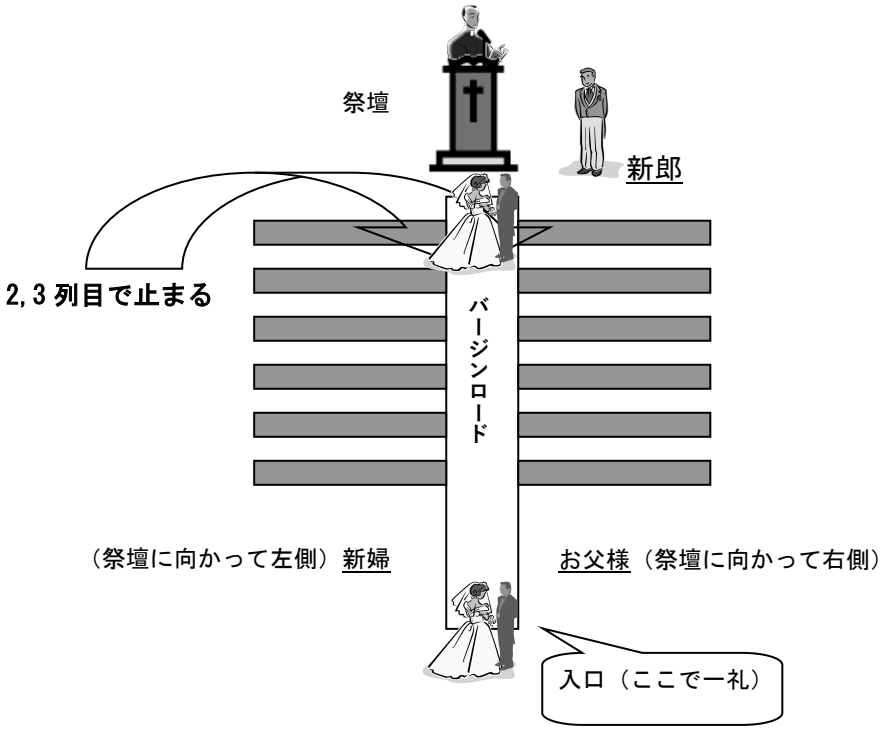
「本日はおめでとうございます。これよりリハーサルを行いますので宜しくお願い致します。」

・両家のご両親が一緒にいらっしゃいましたら、バージンロードを避けて両端の通路から
　お席までご案内してください。ご新婦様のお父様・お母様がエスコートやベールダウンに
　参加される場合は入場口でお待ちいただいて下さい。

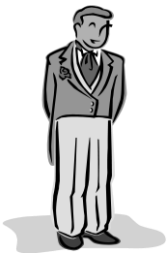
・リングボーイ等お子様のお手伝いが入る場合は、新郎新婦どちらの入場時にご一緒するか、
　もしくは指輪交換時に登場するのか、タイミングをお伺いしリハーサルに組み込んで下さい。
　お子様の保護者様へ、入場後はご自分の方へ呼んでいただけるようお願いしてください。

・リハーサルは聖歌隊２名がそれぞれ新郎・新婦側に担当します。
　新郎側→新郎入場、ベールアップ&キス、新郎新婦退場
　新婦側→新婦入場（ベールダウン）、エスコートチェンジ

※上記のシーン以外は牧師が担当する



●新郎入場

◎新郎入場の有無が決まっていない場合	新郎入場の有無は、新郎だけではなく新郎新婦おふたりに選んで頂いて下さい。 決定したらスタッフ全員にあり、なしを伝える。
◎新郎入場がある場合 	**☆リハーサルは基本、扉の中で行います。** **☆手袋の確認：「手袋はお持ちでしょうか？」** **⇒「手袋の指先を前にして右手で軽く握ってお持ち下さい。」** **聖歌隊先導なし：**「はじめに、新郎様からお入り頂きます。実際は扉の外に正面を向いてお立ち頂きます。扉が開きましたら、1、２歩前に進み一礼をし、普通の歩き方でゆっくりとお進み下さい。」 「祭壇前まで行かれましたら、一度止まって頂き牧師と一礼を交わして下さい。そうしましたら一歩右横にお立ち下さい。」 **聖歌隊先導あり：**「聖歌隊が新郎様の前を歌いながら先導させて頂きます。ご新郎は入口で御一礼後、聖歌隊の後方２メートルほど間隔を空けてゆっくりバージンロードをお進みください。」 「祭壇前まで行かれましたら、一度止まって頂き牧師と一礼を交わして下さい。そうしましたら一歩右横にお立ち下さい。」 **※聖歌隊のかわりに牧師先導の場合もあり。**
新郎入場が無い場合	「こちらからお越し下さい。」 （聖歌隊が新郎を右壁側通路からご案内する）
◎　ご新郎様へ	「新婦入場まで、前を向き、胸を張ってお待ちください。」 「牧師の『新婦入場です。』のアナウンスで左向きで入場口の方をお向き下さい。」

※聖歌隊１名は新郎について祭壇前に行き、新婦の受け渡し方、腕の組み方についての説明を行う。

●新婦入場

	「お父様は新婦様の右側にお立ちください。」 「お父様とお腕を組んで入場していただきます。」
◎手袋をお持ちの場　合	「お父様は、手袋は指先が前になるように右手にお持ち頂いて、左手は親指を中に入れて握り、みぞおち辺りに添えて下さい。」 「新婦様はブーケを左手持ち、右手でお父様と腕を組んで下さい。」 （あまり深く組んでしまうと、歩きづらいのでお父様の腕からそっと指先が見えるくらいが良いです） （ドレスが長くて踏んでしまう場合は、左手でブーケと一緒にドレスをお持ち頂きます。）
◎歩　き　方	「牧師が新婦入場と言いましたら音楽が鳴り、扉が開きます。 　扉が開きましたら、新婦様とお父様、ご一緒にチャペル内１，２歩 　進んで頂き、一礼をして下さい。」 ◆ヴェールダウンがある場合： 「お母様は入口〈扉の中〉でお待ち下さい。お父様と新婦様がチャペル内に入り、一礼しましたらお近づき下さい。」 「お父様は一礼を終えましたら、腕を解きながら新婦様をお母様の方へ向かせてさしあげて下さい。」 「お母様と新婦様で向き合い、お母様はドレスの中に一歩踏み込んで頂きます。新婦様には腰を落として頂き、お母様はベールを手前に下ろしてさしあげて下さい。その際、お母様は新婦様にお声を掛けてあげて下さい。そうしましたら新婦様はお直り下さい。裾が乱れているようでしたら、お母様の手で直して下さい。」 「お母様は一歩離れてお待ち下さい。新婦様は再度お父様と腕を組んで下さい。」 ●ステップ入場： 「一礼後、お二人で息を合わせて、右足からお進み頂きます。 右足を出して…揃える。左足を出して…揃える。（手で動作を示して）といった様に交互に１歩ずつ足を出してお進み下さい。」 「どちらの足を出したら良いかわからなくなっても、お二人の歩く早さが合っていれば大丈夫ですので落ち着いてゆっくりとお進み下さい。」 ●普通の歩き方で入場： 「一礼後、普通の歩き方で構いませんので右足からゆっくり一歩ずつお進み下さい。」「お父様は、新婦様の半歩前を少しリードするように歩きますと、ドレスがお父様の足にかからなくなって歩きやすくなります。」 「お父様はいつもより歩幅を小さく歩いて差し上げて下さい。」 「新婦様もできるだけ前方をみて、胸を張って進んで下さい。その方がドレスのすそが上がるので、歩きやすくなります。」

◎　新婦様とお父様へ	「参列席の前から 2～3 列目のあたりまでいらっしゃいましたら、一旦お止まり下さい。」
◎　新郎様へ	「新婦様とお父様が、前から 2～3 列目のあたりでお止まりになりましたら、新郎様はお父様の前までお進み下さい。」
◎お父様から新郎様への受け渡し	「まず、お父様と新郎様で一礼を交わしてください。」 （よろしくおねがいします、の気持ちを込めて） （新郎様は、幸せにします！の気持ちを込めて） 「その後、お父様はご自分の右手で新婦様の右手を持ち、左手を解きながら下に添え、新郎様に託して下さい。そしてそのまま動かずにお持ち下さい。」 「新郎様は、左手で新婦様の手を引き寄せるようにして祭壇の方をお向き下さい。」 **新郎新婦へ**：「新郎様新婦様は、腕を組んで祭壇までお進み下さい。」 「腕の組み方ですが、新郎様は左手の親指を中にして軽く握り、みぞおち辺りに添えて下さい。」 **お父様へ**：お二人が祭壇前に着きましたら、お父様は左側一番前のお席にお着き下さい。」 （新婦様が進んでいる間にお父様が歩き始めてしまいますと、ドレスの裾を踏んでしまうので、受け渡しをした後、聖歌隊はすかさずお父様に上記のご案内をして下さい。）

●讃美歌 312 番をみなさまとご一緒に歌います。

（牧師が新郎様に式次第をお渡しします。）
「新郎様が左手で式次第をお持ちになりお二人でご覧ください。」
（新郎新婦お二人で見られるように真ん中にお持ち下さい）

●聖書朗読

「新郎新婦は、腕を組んだままお聞き下さい。」

●誓約式

牧師が新郎様に「誓いますか？」と尋ねますので
新郎様は「はい、誓います」とハッキリお答えください。
同様に、牧師が新婦様に「誓いますか？」と尋ねますので
新婦様は「はい、誓います」とハッキリお答えください。

●ベールアップ～キス～指輪の交換～結婚証明書署名

◎　ベール アップ	「新郎様は手袋を牧師に預けてください。 お二人はお向き合いください。」 「新婦様はブーケを少し下の位置に両手で持っていただきます。 ベールが徐々に上がってまいりましたら、片足を一歩引き、ひざを曲げるようにして、新郎様がベールを上げやすいよう低い姿勢をおとり下さい。ベールが上がりましたら、新郎様のエスコートで真直ぐお立ち下さい。」 「新郎様はドレスの中に一歩踏み込んで頂き、ベールの中に親指を入れて下さい。親指をスライドさせるようにしてベールをピンと張り、肩幅位の位置で待ちます。両手でベールを高く上げ、後ろまで送りこんで下さい。 ベールを送りこみましたら、裾をきれいに整えた後、新婦様の両肩に手を添え起こしてさしあげて下さい。」
◎ウエディング キス	「新郎様は、肩にかかっているベールを両手の甲を使って後ろに送って頂き、その流れで新婦様の肩に両手を添え、軽く引き寄せてウェディングキスをして頂きます。 キスはくちびる、ほほ、額どちらでも結構ですので、お式までにお二人でお決め下さい。ほほ、唇にされる場合は、新郎様が牧師の方に顔を傾けるようにしてあげて下さい。キスは３～５秒ほど心の中で数えて下さい。 キスの後、新郎新婦お二人とも一旦牧師のほう(正面)をお向き下さい。」 「新婦様はブーケと手袋（両手）を聖歌隊にお預けください。」
◎　指　輪の 交　　換 	「お二人とも、向かい合ってください。」 *<u>新郎様から新婦様へ</u> 「新郎様は左手を受け皿にして指輪をお受け取り下さい。いったん胸元に引き寄せまして、指輪を右手でつまんで頂き、新婦様の左手薬指に指輪をお贈り下さい。」 *<u>新婦様から新郎様へ</u> 「新婦様は右手を受け皿にして指輪をお受け取り下さい。いったん胸元に引き寄せまして、指輪をつまみ（持ちやすいほうの手に持ち替えても結構です)、新郎様の左手薬指に指輪をお贈り下さい。」 「指輪が途中でつかえてうまく進まなくても、前を向いた際に焦らずそっとご自分でお直しいただければ大丈夫です。」
◎　結婚証明 にサイン	「新郎様に本日の日付を記入して頂きます。（2011.1.22 のように西暦で)」 「署名はお式の時にしていただきます。(漢字でもローマ字でもお二人の字体があっていればＯＫ)」 「旧姓をフルネームで記入してください。」

●お祈りをします。

「聖書の上に新郎様の左手、その上に新婦様の左手を重ねて置いて下さい。
お祈りの後、ブーケと手袋をお渡しいたします。」
※聖歌隊もケープの前で手を組み、目を閉じてお祈りの姿勢をとる。

●結婚宣言をします。

「司式者より、新郎新婦の結婚が成立したことを宣言します。新郎新婦は、内まわりでご参列の皆様の方を向いて下さい。持っている物（新郎：手袋・新婦：ブーケ）を外側に持ち替えて頂き、お腕を組んで宣言をお聞き下さい。」
「宣言のアーメンの後、新郎新婦は正面をお向き下さい。」

●讃美歌 430 番を、皆様と歌います。

「新郎様は式次第を左手で持ち、新郎新婦お二人でご覧ください。」

●祝祷

「目を閉じてお聞きください。聖歌隊のアーメン三唱のあと、退場です。」
※聖歌隊もケープの前で手を組み、目を閉じてお祈りの姿勢をとる。

●新郎新婦退場

「内まわりでご列席のみなさまのほうを向いてください。」
「位置を入れ替えますので、新郎様は右斜め前、新婦様の前にご移動ください。」
（⇒図①）
「新郎様は新婦様の方をお向きになり、左手で新婦様をお隣へエスコートして下さい。」
（⇒図②）
「お二人が並ばれましたら、お腕を組んでいただき、牧師の『退場です。』の掛け声の後、お越し頂いた皆様に感謝のご一礼をしてから普通の歩き方で退場口にお進み下さい。」
※退場口で振り返って一礼をする場合（予め聖歌隊 1 名が退場口にスタンバイしておく）
「こちらまで来ましたら、もう一度内回りで皆様の方を向いていただき、最後に感謝のご一礼をお願い致します。その後退場になります。」
「挙式のリハーサルは以上です。何かご質問はございませんか？（なければ）それでは本日はどうぞ宜しくお願い致します。」　↑　**新郎新婦、ご両親それぞれにご挨拶して下さい。**

4.奏者/聖歌隊のルール

・オルガン奏者は「奏者」と呼びます。

楽器奏者の方は楽器名をつけて〇〇奏者と呼びます。

・ワーグナー「婚礼の合唱」についてはカットが会場により異なります。

カットについては別紙をご参照ください。

・讃美歌の歌う節については会場ごとに異なります。

毎回会場マニュアルを確認するとともに、当日式次第も確認してください。

また聖歌隊は１番を Sop ユニゾンで、２番を二声（Sop&Ten）で歌います。

楽器が入る場合は他のパートを拾って演奏するか、オブリガートを作成してください。

当日の音合わせでは２番の歌詞で（二声で）それぞれ合わせます。

・挙式中のアテンド（新婦の裾直しやブーケ・手袋の預かり）は１式を通して、

指輪交換時にソロを歌わない方の聖歌隊が務めます。

入場時のアテンドのみ例外としてハモリを歌っている聖歌隊が行って下さい。

歌いながらのアテンドは NG となります。

・聖書朗読やお祈りの後など、挙式内で牧師が「アーメン」と唱えた場合は

すぐに続けて聖歌隊と奏者でアーメンを復唱してください。

しかし例外として、誓約の時のアーメンは復唱しません。

常に新郎新婦の目線で考え、お二人の幸せな一日のために尽くして下さい！

分からないことは他の演奏スタッフや牧師に確認を取りましょう。

◇挙式様式　　宗派：プロテスタント　　所属教会：旭丘福音（あさひがおかふくいん）キリスト教会

※キリスト教の２大宗派としてカトリックとプロテスタントが挙げられますが、ジェルモ株式会社は基本的にプロテスタント様式で挙式を執り行っています。もしお客様に「どこの教会所属ですか？」と尋ねられたら「旭丘福音キリスト教会です。」とお答え下さい。

カトリックとプロテスタントの違い

項　目	カトリック	プロテスタント
司式者	司祭（神父）〈独身男性〉	牧師（先生）
ミ　サ	あ　る	“礼　拝”
結婚	可能（聖職者の婚姻は禁止）	可能（聖職者の婚姻も可能）
マリア崇拝	ある（神の母としてのマリア）	ない（人であるマリア）
祈り	祈祷書・祈祷文を用いる 教会を通して祈りを捧げる	自分の言葉で自由に祈る どこで祈ってもよい
バージンロード	赤い絨毯	白い布

◇バージンロード　バージンロードは花嫁の汚れない純潔さを象徴します。本来、新婦と共に入場するのは父親の役割ですが、母親や兄弟など新婦に親しい人とでも構いません。神様と出会う神聖な道ですので、新郎新婦やリングガール等の子供たちの他は、バージンロードを踏んではならないと言われています。

迎賓の際には列席者が立ち入らないよう十分ご注意下さい。入場の道は「今までの過去を踏みしめて未来へと続く道」退場の道は「これからの新しい人生の第一歩を二人で歩き出す道」という意味があります。ちなみにバージンロードは和製英語で、英語ではウェディングロード、またはアイル（aisle）といいます。

教会式以外の結婚式のスタイル

神前式…明治 33 年に行われた、皇太子嘉仁（後の大正天皇）と公爵九条道孝の四女節子の結婚式が宮中の賢所で行われたのに由来し、このスタイルが庶民の間に普及して今のようになりました。神社などの神殿の前で結婚を神に誓い三三九度の杯を交わします。式に列席するのは、親族に限られています。

仏前式…阿弥陀如来やご先祖様に二人が出会えた事を感謝し、結婚を報告します。仏教の教えでは、結婚は前世からの因縁によるものとされていますので、その仏恩に添うように来世までの結びつきを誓う形で行なわれます。仏前結婚式は、先祖代々の墓のある菩提寺か同じ宗派の寺院で行います。大きな寺院では、挙式だけでなく披露宴を行なう設備を整えている所もあり、宗派に関係なく結婚式を行なってくれます。

人前式…神仏ではなく友人知人、親戚の前で結婚の誓いを交わすという、新しいタイプの結婚式です。宗教色や昔からのしきたりに囚われたくないという考えから生まれ、近年増加傾向にあります。

ニ・ニ・ニ・ニ・忌み言葉について・ニ・ニ・ニ・ニ

結婚式や披露宴などのめでたい席において、離婚や別れを連想させる言葉は「忌み言葉」として敬遠されます。
以下に、忌み言葉とそれに代わる良い同義語をご紹介しますので、
リハーサルや挙式の際の言葉遣いには十分ご注意下さい！

忌み言葉	言い換えられる言葉
去る	よける・退席・退場
別れる	いとま・別になる・分岐
離れる	隔てる・移動する・遠ざかる・解く
戻る	移動する・再来する・元の位置へ・直る
追う	後に従う・ついて行く・さかのぼる
返す	元に直す・お渡しする
帰る	元の状態になる・元の所に来る・退場する
切る	止める・済ます・やめる
終わる	しまい・行われた
割れる	分割する・２つ以上になる
飽きる	満足しない・満たされない
嫌う	好まない・避ける
浅い	距離が短い・十分でない
退く	よける・抜ける
滅びる	なくなる
本番	当日は・お式では
掛ける	座る・直る
流す	送る
最後	結び

◆口語例
「本日はおめでとうございました。」→「本日はおめでとうございます。」
「リハーサルはこれで終わりです。」→「リハーサルは以上の様になります。」
「元の位置までお戻り下さい。」→「元の位置までご移動下さい。」
「本番まで一旦指輪をお返し下さい。」→「お式まで一旦指輪をお預け下さい。」
「手袋とブーケをお返しします。」→「手袋とブーケをお渡しします。」

☆ユニティキャンドルのセレモニー☆

３本のキャンドルのうち、左右の２本はそれぞれのご両家を表します。
中央の１本は、これから始まる、二人で新しく築いていく一つの人生・新しい家庭を意味しています。
「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」
（創世記２章 24 節）

ユニティキャンドル」の基本的なやり方をご紹介します。

① それぞれのお母様（または、ご両家代表者）に、祭壇へ
出てきていただきます。
② 司式者は、お母様に、種火を１つずつ渡します。
③ 司式者の合図により、お母様に外側のキャンドルを１本ずつ
点火してもらいます。

④ 新郎新婦のお二人は、それぞれ自分の母親が灯したキャンドルを手に取ります。
（司式者から渡してあげても良いでしょう。）
⑤ 司式者の合図により、お二人は、中央のメインキャンドルに点火をします。

中央の二人で灯した火は、今、二人の別々であった人生が一つになり、これから始まる二人で新しく築いていく一つの人生を象徴しています。また、二人の二つの家族から、新しい家族が一つ作り出されたことを意味しています。

外側のキャンドル二つは、それぞれの両親の家庭を意味し、全部で三つの家庭が出来たことを表しています。
今までお二人が愛のうちに成長してこられ、今、新しくお二人の家庭が誕生する瞬間となるのです。

祈りを込めて、点火していただきましょう。

☆ブーケブートニアのセレモニー☆

遥か昔、愛する人へのプロポーズの意味を込め、野の花を摘み、男性が女性に花束を贈ったのがブーケの始まりとされています。女性は「あなたの愛を受け入れます」という言葉の代わりに、花束の中から一輪を抜き取り、男性の襟元に挿してあげました。これが、花婿のブートニアの始まりです。

・・・このロマンティックなプロポーズに習い、お式でも「ブーケブートニア」のセレモニーを取り入れるカップルが増えています。

「ブーケブートニアセレモニー」の基本的な行い方をご紹介します。

ブーケブートニアセレモニーの行い方・・・その１

① 新郎が、ブーケを持って入場します。
② 新婦（ブーケは持たずに）とお父様が入場します。
③ お父様から新郎へ、新婦を受け渡します。
④ お二人はバージンロード上で向かい合い、新郎が「幸せにします」という気持ちを込めて、新婦にブーケを渡します。
⑤ 新婦は、「あなたの愛をお受けします」という気持ちを込めて、そのブーケから一輪（ブートニア⇒予めブーケに仕込んでおきます）を抜き取り、新郎の胸ポケットに挿します。
⑥ その後、お二人腕を組んで祭壇へ進みます。

ブーケブートニアセレモニーの行い方・・・その２

予め参列者に花を一輪ずつ渡しておきます。（バージンロード側の方だけの時も有り）

① 新郎は、列席者から花を受取りながら入場し、リボンなどでまとめ一つの花束にします。（すでに出来ているブーケとすり替えることも有り・リボンでまとめる作業などは聖歌隊がお手伝いすることも有り）
② 以降は、行い方その１と同じです。

☆リングリレー☆

リングリレーとは、リングを長いリボンに通し、
ご列席頂いているお客様の後ろから前へリレーをして頂き、ご新郎ご新婦それぞれの手元まで
リングを運ぶという、ご列席者参加型のセレモニーです。

人前式の演出としてよく使われますが、最近では教会式でも行うことがあります。
リボンを持つのは大体ージンロード側に座っているお客様になりますが、リボンを持つ人を新郎新婦が指定したいとおっしゃった場合は、迎賓時にお席のご案内をする時に注意が必要ですので、担当者の方とよく打合せをして下さい。
　また、通常はあまりリング自体には手を触れず、リボンを傾けて祝福の思いをこめて送って頂くのがよいとされています。
　リングリレーを行うタイミングもそれぞれ異なります。指輪交換の時や入場してすぐ等、様々です。
事前の確認はもちろんのこと、奏者の方はその間の BGM についても考えておいて下さい。
　また、列席者の方へのご説明を聖歌隊にお願いされる場合もありますので、上記の内容をよく理解しいつでも説明できるように準備をしておいて下さい。

◆◇ 白ケープの管理方法 ◇◆

♪奏者＆聖歌隊の方へ
ケープとリボンはお仕事スタート時にお渡しします。
ケープとリボンは大切に管理して下さい。

①洗濯は、ドライクリーニングの必要はありません。洗濯機で洗って大丈夫です。
色移りすることがありますので、色物とは一緒に洗わないで下さい。

②アイロンでしっかりシワをのばして下さい。リボンは当て布をして下さい。

③保管は、たたむとシワになりますので、ハンガーに掛けて保管して下さい。

④お仕事に行く時は、シワになるので、あまりコンパクトにたたまないで下さい。
スカートを挟んで巻くようにたたむとシワになりにくいです。リボンを忘れずに！

※紛失・破損等の場合は新しいものを購入していただきますのでご注意ください！